

斐伊川流域の水辺紹介

斐伊川流域全般

1級水系斐伊川
穴道湖・中海
斐伊川流域の変遷
流域の歴史、文化、風景
流域の恵みと人々の暮らし

穴道湖周辺

松江堀川
穴道湖水辺八景
穴道湖周辺の水辺利用
穴道湖周辺の観光

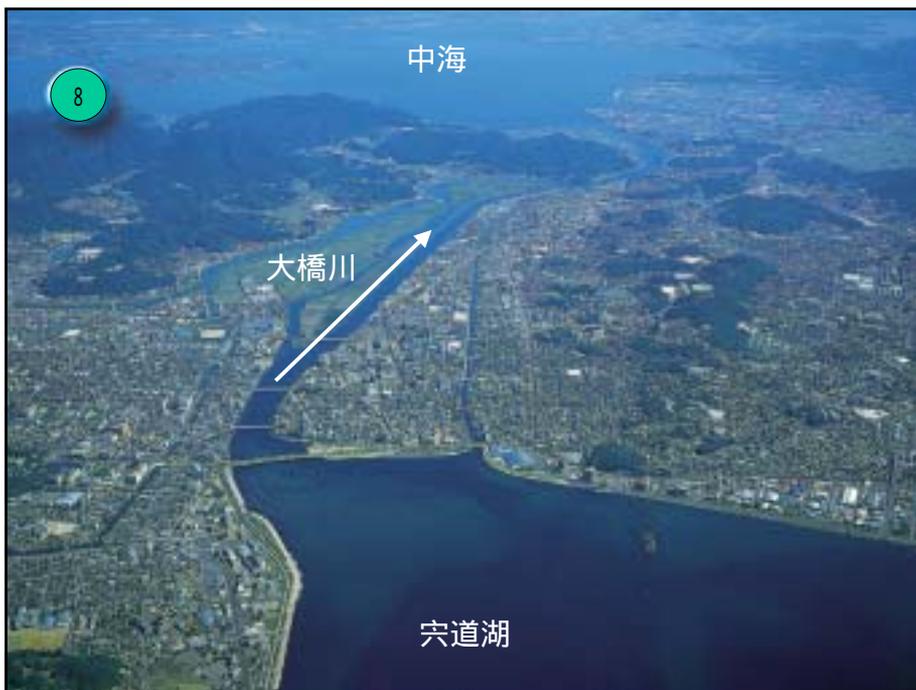














中海と穴道湖の異なる汽水環境



斐伊川流域の地形的特徴

世界でもまれな連結汽水湖

穴道湖

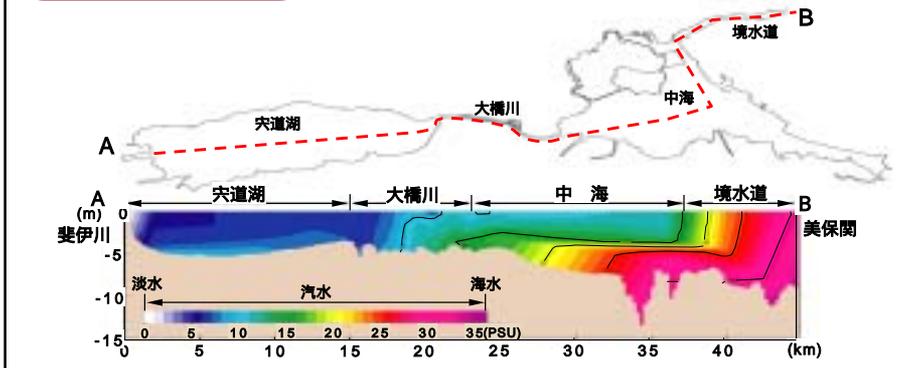
- ・塩分濃度は平均すると海水の約1/10
- ・底層については、高塩分水の流入により塩分濃度が高くなることもある

大橋川を挟んで異なる特徴

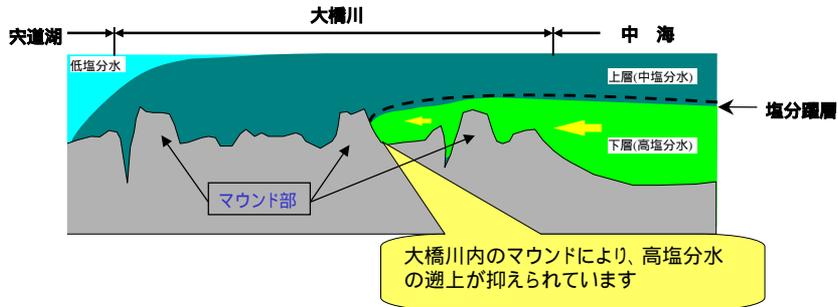
中海

- ・塩分濃度は平均すると海水の約1/2
- ・年間を通じて塩分躍層が形成されている

塩分濃度に大きな違い

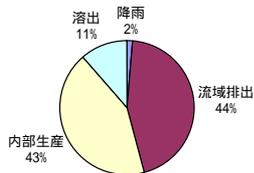
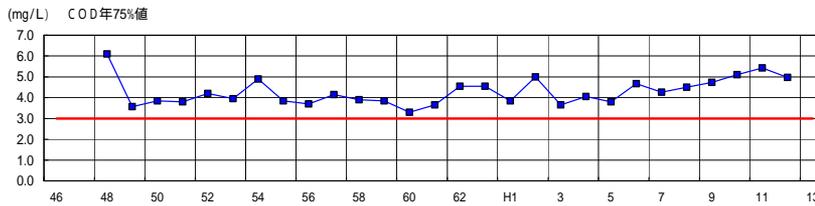


中海から穴道湖への塩分遡上の変化

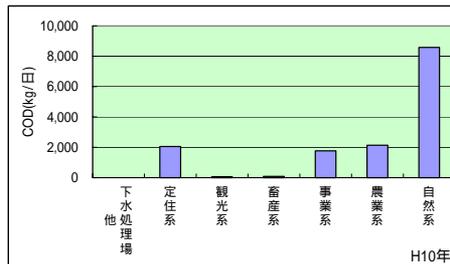


穴道湖の水質

近年の水質はCOD 4 ~ 6 mg / Lで推移しており、環境基準の達成には至っておらず、水環境の改善が望まれる。



H10年

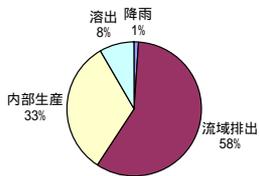
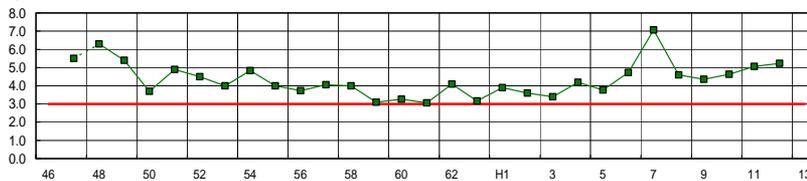


H10年

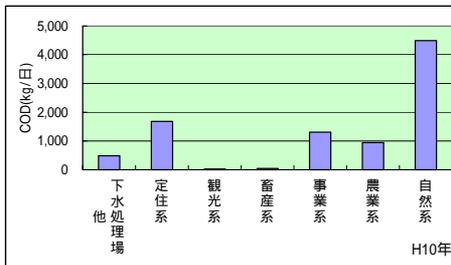
中海の水質

近年の水質はCOD 4 ~ 6 mg / Lで推移しており、環境基準の達成には至っておらず、水環境の改善が望まれる。

(mg/L) COD年75%値



H10年



H10年

斐伊川流域の変遷



斐伊川流域の地形的特徴

斐伊川下流域と中海・宍道湖の変遷

約 11,000年前



斐伊川流域の地形的特徴

斐伊川下流域と中海・宍道湖の変遷

約 7,000年前
(縄文時代早期)



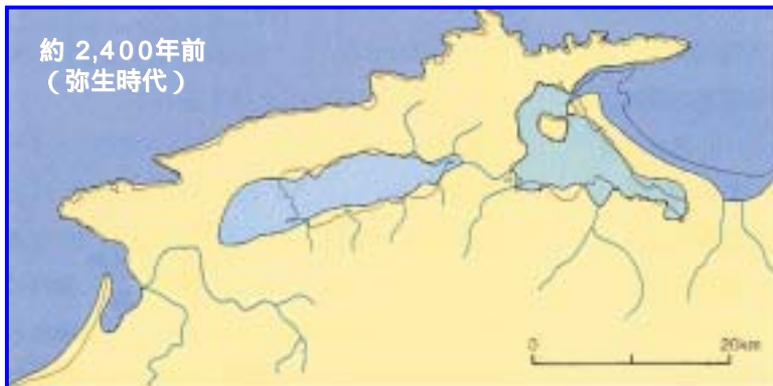
斐伊川流域の地形的特徴

斐伊川下流域と中海・宍道湖の変遷



斐伊川流域の地形的特徴

斐伊川下流域と中海・宍道湖の変遷



斐伊川流域の地形的特徴

斐伊川下流域と中海・宍道湖の変遷



斐伊川流域の地形的特徴

斐伊川下流域と中海・宍道湖の変遷



斐伊川流域の「たたら製鉄」と「鉄穴流し」

中国地方では昔から、砂鉄を精錬して鉄をつくる「たたら製鉄」が盛んに行われ、18～19世紀にかけては全国一の鉄生産量を誇った。

特に、出雲地方のたたら製鉄は「出雲国風土記」にも登場し、斐伊川上流域の主要産業であった。

しかし、20世紀半ばまでには近代的製鉄業の台頭により、消滅の一途をたどることとなる。

「たたら製鉄」の様子



「鉄穴流し」の様子



(財) 日本美術刀剣保存協会提供)

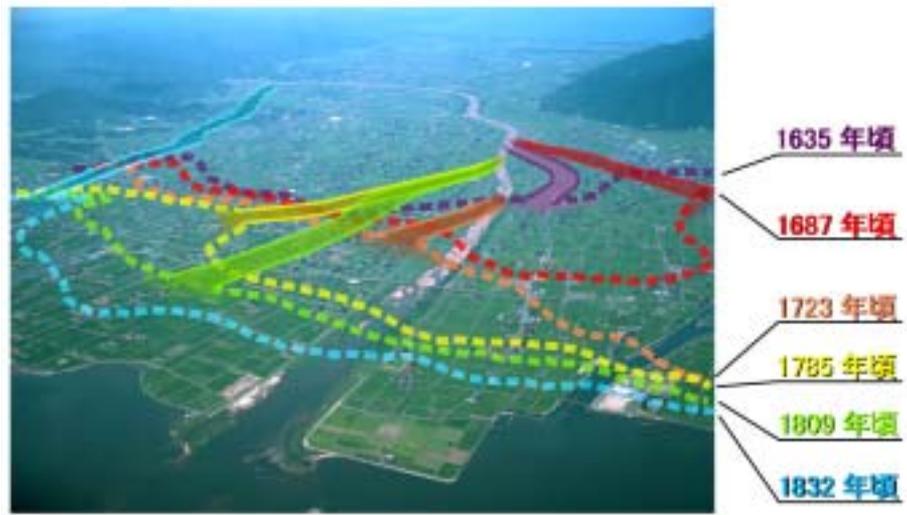
斐伊川流域の「鉄穴流し」と「干拓」

「鉄穴流し」により上流からもたらされた土砂は、肥沃な土地を産みだした！



新田開発を兼ねた洪水対策

過去、斐伊川がもたらした土砂は、河床の上昇と頻繁な洪水をもたらしたため、40～60年ごとに河道を付け替える「川遣え」を行い、洪水を防ぐとともに、その土砂を利用して「新田開発」に取り組んできた。

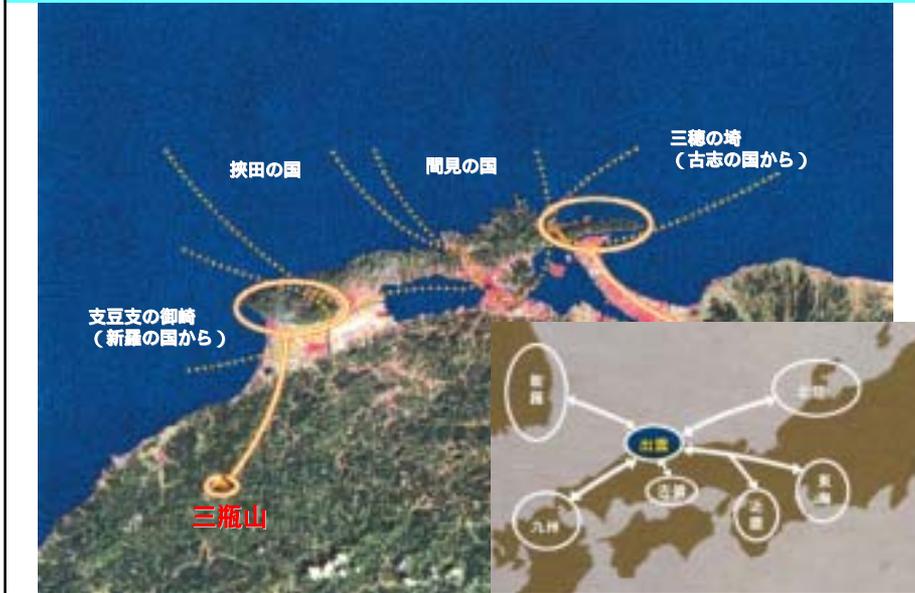


流域の歴史、文化、風景



神話に見る斐伊川流域

「国引き神話」



神話に見る斐伊川

「八岐大蛇(ヤマタノオロチ)神話」



神話に見る斐伊川

「八岐大蛇(ヤマタノオロチ)神話」



斐伊川流域にまつわる「神話」

出雲の国風土記に見る水と人との関わり



斐伊川流域の風景



斐伊川流域の風景



斐伊川流域の風景



斐伊川流域の風景



斐伊川流域の風景

4 出雲大社



斐伊川流域の風景

5 穴道湖夕景



斐伊川流域の風景

6 松江大橋



斐伊川流域の風景

7 中海と大山

米子水鳥公園提供



流域の恵みと人々の暮らし



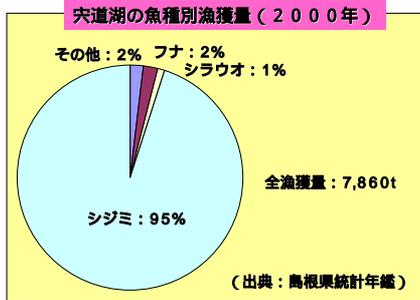
斐伊川の水資源

農業、上水道、工業及び発電用水の取水があり、このうち農業用水の取水量が最も大きく、ついで発電用水となっている。

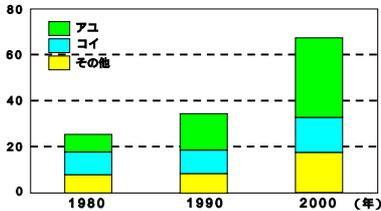


斐伊川の漁業

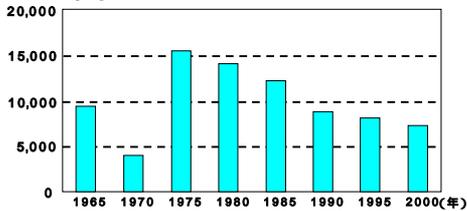
斐伊川の漁獲量



漁獲量 (t) 斐伊川の漁獲量の推移



「シジミ」の漁獲量の推移



斐伊川の舟運

- ・風土記の時代から物資の輸送に斐伊川が利用されていたことが知られる。
- ・1664年出西高瀬川ルートが整備され、雲南の上納米を大阪の松江藩蔵屋敷に送られた。
- ・1715年来原高瀬川ルートが整備され、登米の輸送経路として確立



斐伊川の舟運

- ・舟運の盛んな江戸期の松江の玄関口は松江大橋南詰の大橋灘であった。
- ・大橋灘から御手船場に至る大橋川右岸と京橋側下流、水軍の根拠地である「御船屋」周辺が舟運の拠点であった
- ・船着場の周辺には、旅館や問屋、造船所、倉庫等の施設が立ち並んでいた。
- ・堀川にも多くの船着場があり、小船が入り込んで米、野菜、水、果物等日用雑貨の売買がなされていた。

昔の面影が残る松江の港



江戸時代の堀川

堀川と暮らしの関わり

- ・江戸時代の堀川は、物資の輸送、水上交通、そして生活用水として利用された。
- ・特に京橋川は大橋川、宍道湖、中海につながる水運の基地であった。
- ・良い飲料水に恵まれなかったため、大海崎などからわき水や井戸水を船で運ぶ水屋も繁盛した。
- ・堀川沿いに住む人々は、川の水で顔を洗い、野菜を洗い米をとぎ、食料や鍋釜を洗うなど、庶民の暮らしと堀川は密接に結びついていた。



- ・堀川をきれいに保つために官民あげて努力
- ・1732年に松江藩町奉行が次の触れ出しをした。
 - ・ゴミを堀へ捨ててはいけない
 - ・各人は家の前の堀さらえをすること

汚れゆく堀川

変わりゆく堀川との関わり

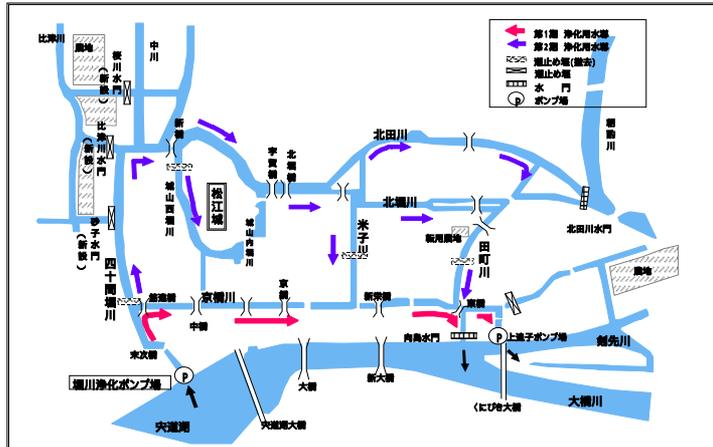
- ・大正7年千本ダムが完成し、上水道の普及により、堀川の生活用水としての役目が終わる。
- ・鉄道や自動車などの陸上交通の発達により、舟運が衰退し、堀川は水路としての用途を失う。
- ・住宅や道路用地とするために埋め立てられたり、川幅が狭められたりして水の流れが滞る。
- ・大橋川浚渫により、堀川への塩水の流入量が多くなったことから、昭和12年に水門が設置され、堀川はため池のような状態となる。



堀川の水質が悪化

堀川浄化への取り組み

- ・昭和51年より宍道湖から浄化用水を導水開始
- ・平成8年より堀川全域に渡り通年導水を開始
- ・松江市の下水道整備等と相まって、これらの対策により松江堀川の水質はBOD75%値が8.5mg/l前後から3.3mg/lまで大きく改善。

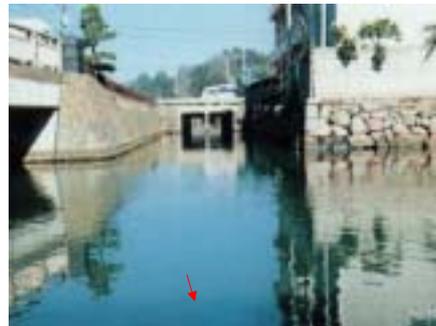


堀川浄化への取り組み

旧松江警察署前

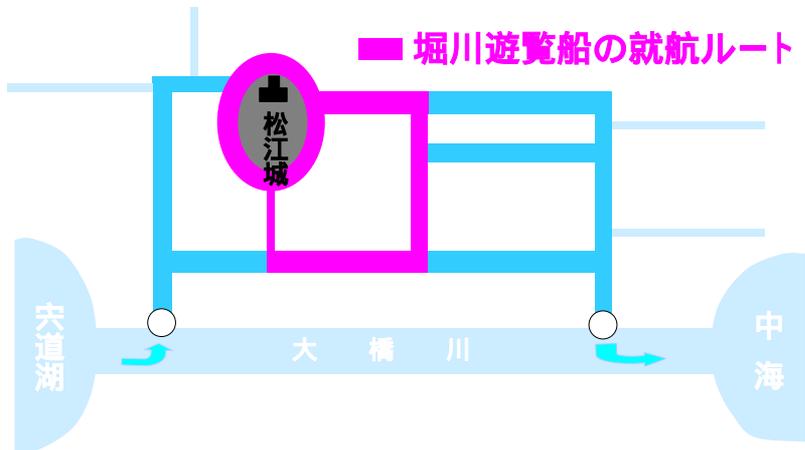


浄化前(昭和50年頃)

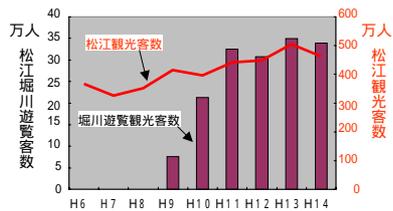


浄化後(平成8年頃)

堀川遊覧



堀川遊覧



◆ 水質が改善した堀川を観光に活用する堀川遊覧が就航。3年で乗船者数が30万人を超え、松江観光客数の増加に貢献



穴道湖水辺八景

① 春：「春の玉湯湖畔」



穴道湖水辺八景

② 夏：「グリーンパークの夏」



宍道湖水辺八景

③ 秋：「秋の満願寺灘」



宍道湖水辺八景

④ 冬：「冬の十六禿」



穴道湖水辺八景

5 通年：「亀のいる風景」



穴道湖水辺八景

6 通年：「夏の空港なぎさ公園」



宍道湖水辺八景

⑦ 通年：「美術館のある水辺」



宍道湖水辺八景

⑧ 通年：「嫁ヶ島残照」



宍道湖周辺の水辺利用



水 辺 利 用



水 辺 利 用

① 日常利用



水 辺 利 用

② バードウォッチング



水 辺 利 用

③ 環境学習



水 辺 利 用

④ マリンスポーツ



水 辺 利 用

5 日常利用



水 辺 利 用

6 イベント



水 辺 利 用

⑦ イベント(レガッタ)



ヨシ再生プロジェクト

植栽前



植栽状況



植栽後



祭 事



祭 事



ホーラエンヤ



宍道湖周辺の観光



観 光



観 光



水辺のあり方を考える・・・

